

令和8年度 入学式 式辞

国土地理院の地図にかたいしやまと記され、こうせきやまとバス停に書かれる、石山地区のランドマークから、例年よりかなり早く雪が消え、陽春に顔をほころばせる季節となりました。

本日ここに、ご来賓をはじめとする、皆様の暖かい祝福を受けて、市立札幌啓北商業高等学校として区切りとなる、令和8年度入学式を挙行できますことに、心より感謝申し上げます。

173名の新入生の皆さん、入学おめでとうございます。皆さんの入学を、教職員一同心より歓迎いたします。そして今日という日を待ち望んでいた保護者の皆様、お子様のご入学、誠におめでとうございます。学校を代表してお祝い申し上げます。

本校は、卒業までの3年間で身に付けて欲しい資質を、グラジュエーションポリシー「3つのC」で象徴しています。想像できる力「クリエイションのC」。協働できる力「コラボレーションのC」。挑戦できる力「チャレンジのC」です。本校では、日々の授業はもちろん、学校行事、部活動に至るまで、すべての教育活動はこれらの力を養うために行われます。そしてこれは、開校当時、校歌の一節である商業の神マーキュリーに込められた、本校の目指してきた教育のDNAそのものです。

どこの学校でもそうなのですが、高校の勉強に不安を抱える人はとても多いです。特に本校は財務会計や課題研究といった、中学校では聞いたことの無い科目が登場します。

しかし不安というピンチはチャンスでもあります。小学1年生からすでに9年間も積み重ねていたり、中学から学び始め3年間の差ができていく科目と違い、簿記もマーケティングも、実は全員が横一線で一斉スタートできる授業なのです。

さて、1913年アメリカの作家エレナ・ポーターの「少女パレアナ」という本を聞いたことがありますか？日本では赤毛のアンと同じ村岡花子氏の翻訳で紹介され、1986年にはポリアンナ物語としてアニメ化されました。厳しい境遇に置かれても、どんな事からでも喜ぶことを探し出す「何でも喜ぶゲーム」が、町全体に広がる遊びとなり、人々の心を明るくしたという。全編に渡って強い希望と温かい心が溢れている小説です。

心理学では現実逃避傾向をポリアンナ症候群と呼ぶことがありますが、主人公は決して、ポリアンナ症候群ではありません。ただ、前向きにフォーカスして生きる姿勢を確立しているだけです。

そこで今日の入学式では、みなさんにはこう伝えたい。「中学校までのことは関係ない。これから啓北で何を学ぶかだけが重要である」。これまでの自分の歴史は変えられない、しかしこれからの自分の物語は変えることができる。つまりヒストリーは変えられないが、ストーリーは変えられる。みなさんは今日、開校86周年を刻む啓北生となった。ただそれだけで素晴らしい。今日から始まる高校生活を、自信とプライドを持って送ってください。

最後になりましたが、保護者の皆様には、お預かりいたしました生徒たちを、教職員一同、一丸となって指導にあたることをお約束申し上げます。

今後とも本校の教育方針をご理解いただき、ご協力とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

令和8年4月8日 市立札幌啓北商業高等学校 校長 梅澤 謙